

天皇制を考える市民講座

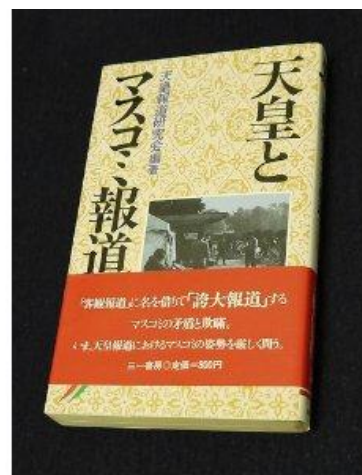
2014年

4月25日 (金)

午後6時半から

会場 神戸学生青年センター

(阪急六甲駅下車、北東徒歩3分) TEL078-851-2760



講師 山口 正紀さん

「人権と報道・連絡会」世話人、フリージャーナリスト・元読売新聞記者 2003年退社、『週刊金曜日』に「人権とメディア」を隔週連載、『天皇とマスコミ報道』で読売時代に皇族報道の執筆を拒否し皇室賛美報道に抵抗した経過を報告。

講演

再び戦争する神の国へ～天皇・天皇制を美化するメディア

参加費 700円

天皇と国民との関係をめぐって昨年大きな「事件」となったのは、山本太郎参院議員による天皇への「直訴」でした。天皇主催の園遊会の場で「東日本の子どもたちの健康被害や原発労働者の被曝の現実を知ってほしい」との手紙を渡したことが大問題になりました。政府やメディアは「極めて非常識」「不適切なふるまい」「不敬だ」などのバッシングをあげ、朝日新聞も社説で「超えてはならない一線」と非難しました。これは戦前の不敬罪そのものです。しかし現在は山本さんが処分される根拠は全くなく、それどころか請願法で天皇への請願を認めているのだから「何が悪い」と開き直れば良かったのです。もちろん私たちは「直訴」などという天皇を崇拜する行為は主権者として恥ずかしいことだと思います。まったく逆に「美談」にされたのは石牟礼道子さんが皇后へ「全国海づくり大会で天皇・皇后が水俣に来る際には、水俣病患者に会ってほしい」と「直訴」したことです。それが実現したことで、各マスコミはこれを「美談」として取り上げ「直訴」は「天皇・皇后を敬愛する行為」であり「水俣病患者に心をよせる天皇・皇后」はすばらしいと宣伝につとめました。これらは天皇制の美化そのものです。

ところで、自民党は改憲草案で天皇を「元首」とし「国防軍」を設置すると言います。また国事行為以外に「公的行為」を設けこれまでの天皇の違憲行為を合憲化します。こうしたことにマスコミはどれだけ警鐘をならしているのでしょうか。これらを検証してみたいと思います。

共催 神戸学生青年センター、はんでんの会